



企画展

染付と赤絵



平成24年6月17日(日)ー7月22日(日)

- 開館時間 9時～17時(入館受付は16時30分まで) 月曜日休館(祝日の場合は翌日)
- 入館料 一般500円 高校生300円 小・中学生無料 友の会会員 無料
障害者手帳提示の方・付添者 無料 団体(20名様以上)、シルバーカード提示の方 2割引
- 主催 財団法人 林原美術館
- 後援 岡山県郷土文化財団、山陽新聞社、NHK岡山放送局、RSK山陽放送
- ギャラリートーク 会期中の毎週土曜日14時から学芸員によるギャラリートークを行います。(ただし7月14日はスペシャルギャラリートークを行います。)

林原美術館

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-7-15
TEL (086) 223-1733 FAX (086) 226-3089
<http://www.hayashibara-museumofart.jp>



色絵金欄手桜樹樓閣図大鉢 古伊万里様式 江戸時代

企画展

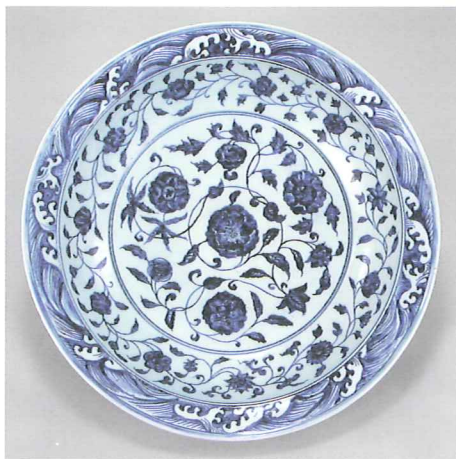
染付と赤絵



染付雲鶴波濤図八角大壺 明治時代



五彩花鳥文大鉢 明時代



青花唐草文大皿 明時代



色絵花卉文水注 柿右衛門様式 江戸時代

マイセンなどヨーロッパの高級磁器から染付の日常食器まで、日本だけでなく世界の人々を現在も魅了し続ける「青と白」。単純で穏やかで、しかし並ぶものがない美しい色彩の組み合わせの磁器の誕生は、約700年前の中国にまでその起源がさかのぼります。

染付は中国では青花と呼ばれ、元時代後期の景德鎮窯で技術と様式が完成されます。彫や型押し文様の青磁・白磁が主流であった中国において、「青と白」は当時の人々をとりこにしたことは想像に難くありません。染付の「青」に「赤」をはじめとする色を用いる赤絵は、中国では五彩といわれ明代に花開きます。中国で誕生した磁器の技術はアジア各地に伝わり、それぞれの地域に根付くことになります。

朝鮮を通して日本に伝わった染付は、日本においても独自に発展します。17世紀後半から乳白色の生地に赤を基調として余白を残す独特の意匠の柿右衛門様式や、赤絵に金彩をまじえた金欄手と呼ばれる華やかな磁器も登場します。伊万里の港から海外にも盛んに輸出され、ヨーロッパの王侯貴族の部屋を飾りました。さらに江戸時代に鍋島藩の官窯として焼造された鍋島焼は、藩の贈答品として技術の粋がつかされ、色絵磁器の最高峰とも評されます。

本展では当館所蔵のこれら日本の豪華絢爛な磁器と、その源流となる中国の染付と赤絵を展示いたします。白地の上に彩られる青と赤が織りなす美しい世界をご鑑賞ください。

林原美術館

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-7-15 TEL(086)223-1733 FAX(086)226-3089

<http://www.hayashibara-museumofart.jp>

*車椅子対応の設備あります。

交通/JR岡山駅から徒歩25分/路面電車[東山行]県庁通下車徒歩7分

岡電バス[岡電高屋行]県庁前下車徒歩3分

宇野バス[瀬戸駅前・四御神行]県庁前下車徒歩3分



次回予告 企画展「平清盛—平家物語絵巻の世界—」
平成24年8月3日(金)～9月30日(日)

武家として初めて太政大臣にのぼった平清盛と、その一族の栄枯盛衰を描いた『平家物語』は、日本で最も親しまれている物語の一つです。そのすべてを絵画化した当館所蔵の「平家物語絵巻」(全36巻)を中心に、平家物語の織り成す激動の時代を振り返ります。